

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士 (医 学)      氏 名 松本 美櫻

	主査	教授	渥美 達也
審査担当者	副査	教授	平野 聡
	副査	准教授	神山 俊哉
	副査	教授	坂本 直哉

学 位 論 文 題 名

内視鏡処置における後出血に関わる因子の検討

(The study of factors about post-procedural bleeding in endoscopic interventions)

今回内視鏡治療における後出血に関わる因子の検討として、経験的に出血率が高いとされるヘパリン置換および透析患者に対する内視鏡治療は後出血率が有意に高いことがアンケート調査による多施設共同の後ろ向き試験にて明らかになった。そして、後出血の予防として一般的に行われている大腸ポリープ切除後のクリップ施行を検討し、多施設共同の非盲検検証的非劣性試験においてクリップ非施行の非劣性が証明された。

この発表に対し、ヘパリン置換におけるガイドライン遵守スコアについての質問では遵守スコアの異なった運用の具体例として、ヘパリン置換中の APTT が目標値に達していないことや、ワルファリン再開時期が遅いこと、ヘパリン中止時の PT-INR が治療域に達していないのにヘパリンが中止されていることなどがあつたことが挙げられ、全体では血栓症発症のリスクが高まる方向に傾くであろう逸脱例が多いと回答された。

また、ガイドライン変更後も抗血小板薬に対しヘパリン置換が行われていることがあるという実態が明らかになった。

透析については、出血に寄与する原因についての質問があり、透析に使用する抗凝固薬の影響が考えられるほかに、これまでに透析患者では尿毒性物質の蓄積による血小板の機能不全が出血を増加させるという報告があると回答され、今後のさらなる検討が必要であろうという結論となった。

大腸ポリープ切除後のクリップ施行の検討においては、除外例があることでのバイアスについての質問があつたが、一群約 1500 個というポリープの個数が集積されたことでその問題は解決されているものと回答された。

今回の 3 つの検討はすべて多施設によるものであつたが、多施設の研究による回答の正確性を保つにはどうしたかという質問がされ、代表はもちろん実際の研究担当者に直接研究の目的を伝えること、前向き試験については可能な限り施設に赴きコメディカルまで含めて説明会を行ったことを説明した。

また、各解析につき統計的な質問があつたが、統計計算は統計専門家の監修を受けており問題ないことが説明された。

この論文は、これまで経験的にしか知られていなかった手技の後出血、効果を明らかにしたことで高く評価され、今後の実臨床においての活用が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。